

「練馬の緑」

豊玉小学校六年 亀田 安紀

私は、最近の公園は緑が減ってきたと感じています。ゴミが増え、公園が汚くなってきました。また、新しくできた公園はコンクリートやジャリの地面で、気持ちばかりの遊具と日がまともにあたる所にベンチが置いてあるだけです。緑はというと、虫も育たないような細くて小さな木が植えてあります。見晴らしがよいため、犯罪が起きにくい公園となっています。今の時代、そういうことに気をつけて公園を作るとは大切だと思いますが、そのことにこだわりすぎて子供が楽しく遊べる公園が少なくなってきた気がします。都会にはビルや家が多く、自然の多い場所に行くには車に乗り、時間をかけて行かな

ければなりません。

私は、緑がたくさんあって、花がいっぱい咲いているような美しい公園が近くにあってほしいです。お花があればチョウが集まり、大きな木があれば、野鳥やセミが集まってきます。虫が増えたら、それをえさとする鳥達も増え、自然が増えたら、そこにすずみにきたり木かげで読書をする人達が訪れます。大人の人が公園を利用することになれば、子供を犯罪の目から守れると思います。人は、自然と接し、元気に遊ぶことで成長するのではないのでしょうか。私は、美しい自然を見ることで心が豊かになり、笑顔が増えると思います。自然が人の心を豊かにし、成長させていく。人も自然を守っていく。人と自然は助け合って生きていると思います。自然は、私たち人間の命と言えるのではないのでしょうか。私は、そんなたくさんの命が集まる公園が好きです。未来の練馬には、「虫いっぱいかまえたよ」と、子供たちが笑顔で言える公園が

あつてほしいです。